

# CASBEE<sup>®</sup> 新築[簡易版]

■使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版)2010年版 使用評価ソフト: CASBEE-NCb\_2010(v.1.8)

## 評価結果

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	同志社女子大学京田辺キャンパス	階数	地上5F
建設地	京都府京田辺市	構造	RC造
用途地域	第1種中高層住居専用地域	平均居住人員	XX人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	XXX時間/年
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2015年2月 予定	評価の実施日	2014年2月28日
敷地面積	71,922 m <sup>2</sup>	作成者	鈴木智香子
建築面積	1,437 m <sup>2</sup>	確認日	2014年2月28日
延床面積	5,381 m <sup>2</sup>	確認者	松尾和生



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.9** ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

★★★★★

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです(kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q 環境品質** **Qのスコア = 3.0**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.9

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.1

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.1

**LR 環境負荷低減性** **LRのスコア = 3.9**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.4

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.4

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.7

### 3 設計上の配慮事項

<p><b>外観</b>は、キャンパスのイメージや既存の学舎イメージに沿った、同志社所大らしいデザイン(勾配屋根とレンガタイル)で統一することで、周辺環境との調和を図った計画となっています。</p> <p>内部は、看護学を学ぶに相応しい明るく、吹き抜けた空間となっています。</p>	<p>注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。</p>
<p><b>研究室</b></p> <p>研究や実習をするのに使いやすいよう、フレキシビリティの高い計画としています。</p> <p>実習ではベッドや各種機器を動かすことが多いため、壁には合板や木材を張るなど、なるべく壊れない・強い太陽光パネルを利用しています。</p> <p>光庭を中心にして計画された共用部分(廊下から階段)では、自然通風・自然採光を実現できる建築計画となっています。</p>	<p><b>特別実習室</b></p> <p>特に外壁材、床材については耐用年数を長くできるような材料を採用するようにしています。</p> <p>実習室はPC床版現し天井とすることで、天井高さを確保し、広がり感のある実習室を実現しています。</p>
<p><b>周辺環境</b></p> <p>周辺の学舎との調和を大切に、同志社大学らしいイメージを継承します。</p> <p>また、既存樹木を極力残しながら計画します。</p>	<p><b>外部空間</b></p> <p>豊かな外部空間を生かし、建物1Fと2F部分ではピロティや庇、半外部空間を積極的に設けて、敷地外への熱的影響を小さくしています。また、地面の仕上げも舗装でなく、緑化・保水性のあるインターロッキング仕上げとしています。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される